
七八夕～遅れてきたタナバタ～

癒得

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七八夕ゝ遅れてきたタナバタゝ

【Nコード】

N3575H

【作者名】

癒得

【あらすじ】

せっかくの七夕なのに遅れやがって・・・

(前書き)

七夕の日によくありそうな光景を書いてみました！

「一年とか短すぎると思わない？」

「は？ 何が？」

夕方になり教室も夕日で赤く照らされ始めた頃、そろそろ帰ろうと支度をしていた理奈はすぐにその言葉の意味を理解する事が出来ず実代に聞き返した。

「七月七日なんだから七夕の事だろがいつ！」

理奈は思わず実代の頬を両手で掴み引っ張ると少し怒った声を出す。

「怒らなくてもいいでしょ？」

「はひ、ごめんなひゃい」

「よろしい」

理奈に引っ張っていた手を放してもらった実代は涙目になりながら頬をさすった。

「で、どういうこと？」

「織姫と彦星が会えない時間が短すぎる！」

理奈はあきれた顔をして「……どうして？」と聞き返す。

「何千年も生きてる神様だよ？！ 一年なんて一瞬じゃない！」

「……なんでせっかくのロマンチックな七夕にそんな話をするの」

「ふんっ、七夕なんてただのノロケ話じゃん、それにあんな紙切れに書いたくらいで願い事が叶うわけないしっ」

「もう……素直に楽しめばいいのに」

「もう帰るっ！」

実代はカバンを引っつかむと小走りで教室を出て行く。理奈が手を振ると、実代もそれを見て小さく手を振って帰っていった。

＊

辺りが暗くなった頃、家についた実代は自分の部屋まで一直線に進み、ベッドにボスッと倒れこんだ。少し寂しそうに携帯を開いてメールをチェックする。何も変化なし。

「ほら……やっぱり叶わないじゃん」

誰にも聞かれないように小さな声で呟くと携帯をカバンに放り投げ拗ねるようにベッドの上で丸くなった。

「ばか」

＊

「うん……ん……しまったあ、もう十二時過ぎてんじゃん」

実代はベッドから気だるそうに起き上がり制服を脱ぎ始める。

「あ」

カバンの開いた口からすこし見えていた携帯が光っていた。

「……メール」

カバンの中から携帯を取り上げてメールを見る。すると実代の顔が真っ赤になった。

「何が 七夕だね だよ……もう七月八日」

実代はまた携帯をカバンに放り投げると少しだけ浮かれてベッドに飛び乗り丸くなった。

「返信してあげない……ばか」

(後書き)

どうでしょうか？みなさん案外連絡を待ってるかもしれませんよ？
最後まで読んでいただきありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3575h/>

七八夕～遅れてきたタナバタ～

2010年11月19日08時19分発行